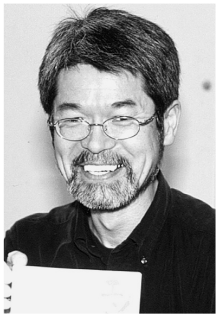
巻・頭・言

ひきぎわ

五十嵐　敏　彦(いがらし　としひこ)
技術士(応用理学／建設／総合技術監理部門)

公益社団法人　日本技術士会
北海道本部　社会活動委員会
エゾシカ研究委員会代表



予めお断りいたします。本稿は駄文です。書くネタがありません。

日常業務で多忙を極める意気軒高な技術士さんには、何の役にも立ちません。時間の無駄ですから速やかに頁を捲り、読み飛ばすことをお勧めします。

まず始めに、存じ上げませんでしたがこの「巻頭言」、北海道本部の役員(特に研究委員会の代表)が持ち回りで執筆する暗黙の了解があったようです。昨年度末(北海道本部的にはこの 5 月末)で本部幹事を退任した私は、投稿資格を失って逃げ通せるはずでしたが、滑り込みに失敗しご指名を受けました。

なお、本稿はエゾシカ研究委員会の代表名で投稿しますが、過年度の研究会活動については前号で、江頭幹事が詳細に報告していますのでここでは割愛します。また、お約束だった「エゾシカ飼うべ」の続編は諸般の事情から執筆が遅れています。何とか本年度中には成果をまとめたいと考えていますので、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

と言うことで、ここではエゾシカには一切触れず、前号で能登本部長が述べられた「トップ交代の年」のお題を受け、老境を迎えた技術士が最近考えているあれこれを呟きます。

私事で恐縮ですが、昨年私は還暦を迎えました。技術士を取得して 26 年、40 歳を前にして独立開業し 21 年が過ぎました(40 歳は恐らく人生の折り返し)。若いころの不摂生が祟ってか、ここ数年はいくつかの大病を患い、加えて網膜剥離の目には酷く歪んだ世界が映ります。

それ以上に衰えた？のは心持ちでしょうか。子供たちがそれぞれに巣立ち、孫たちが生まれて生き物としての世代交代を果たしました。その意味では、“終わった人”かも知れません。

振り返って見れば、子どものころから成績や順位に踊らされ、“みんな”や“普通”を意識していつしか自分も他者と比べる浅ましい価値観が染み付きました。ひょっとしたら出世や『技術士』も、他者と比べる物差しだったのかも知れません。

ところが髭にも白いものが目立ち始めたある日、疑問に感じて“他者比べ”をやめると、“人は人、我は我”に心底から気付き、急に力が抜けて身も心も軽くなりました(これは衰え？？)。すると欲も薄れ“あれしたい、これしたい、あれ欲しい、これ欲しい”も消えました。

こんなことを言っては失礼ですが“技術士さん、仕事離れりゃただの人”ですよね。しかも技術士の顔は自身の一面に過ぎません。残された時間をどの顔でどう過ごすのか、自分の居場所をどう探すのか、とても大きな課題です。

「還暦などまだまだひよっこだよ。」と仰る方もいらっしゃいますが、命には限りがあります。“終わった人”に残された時間は決して無限ではありません。上手にフェイドアウトする術も必要でしょうか。

と言うことで、後にも先にもたった一度の「巻頭言」でしたが、図らずも本部役員の退任と重なりました。長年に渡ってご厚誼・ご厚情を賜りました会員の皆様、本当にありがとうございました。皆様の益々のご活躍を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。